

# 埼 葛 退 職 校 長 会 会 報

第 54 号

平成30年12月発行

発行責任者  
相澤勝寿

## 会員の福祉増進と 教育の進展を願って

埼葛退職校長会

副会長 濱野紀生

今年夏は夏の猛暑、強く巨大な台風、地震、火山の噴火等々自然の猛威にさらされた年でした。自分を振り返ると、若い時のように、気候や状況の変化への対応が難しいのが現状です。

しかし、退職校長会の会員の皆様を拝見していますと、元気に積極的に活動されている方々が多いのに勇気づけられます。

現在の国際情勢・社会情勢は混沌としています。グローバル化は避けられないし、AIは益々急力アップで進展していくものと思われまふ。日本に住み・仕事をし・生

活する外国人の文化・価値観・考え方が当然異なります。日本人の若者の価値観も影響を受けて、今よりも更に変化すると思います。変化は悪いことばかりではなく、良い点も多々有るとも思います。また、AIの発展により、AIの優位な領域で、多くの仕事が取って代わられる可能性が大了。この変化に対応出来ない人が、職に就けない状況も、生まれてしまうことでしょう。

このような社会で「会員一人一人が、健康で豊かな人生を送れること、そして子供たちが、強く逞しく有為な人材として、成長してゆくこと」を、願わずにはいられません。本会の活動が、これらの達成の、一端を担うことが出来れば有難い、と思います。

これまでの本会の会長はじめ会員の皆様方は、それぞれの特性・個性を生かして、埼葛退職校長会の発展に、会員の福祉増進に、埼葛の教育推進に寄与してきました。この活動に、深く感銘すると共

### 特 集

埼葛地区現職・退職  
校長教育推進協議会  
班活動状況

に、私も、非力ながら、微力を尽くす所存です。

ご支援、宜しく願います。

## 副会長退任にあたって

埼葛退職校長会

前副会長 落合三郎

本年五月の定期総会をもって退任した副会長の落合三郎です。平成二八・二九年度の二か年に亘り会員の皆様には大変お世話になりました。

この二か年の後半二九年度は、丁度埼葛退職校長会創立五〇周年の記念すべき年に当たり、前会長の山根和夫先生のご指導を賜り、執行部の一人としてそれなりに活動できたことは、我が人生の思い出として深く刻むことができました。

また、埼葛退職校長会五〇周年の歩みは本会広報部の先生方に、乏しい予算を有効に活用し「埼葛退職校長会五〇周年記念号」として、会報第一五二号の特集号も作成していただきました。

このことは、昭和四三年に創設された本会の目的等を継承し、一〇年後、五〇年後の会員の皆様に輝かしい歴史を残せたと確信いたしております。協力を頂いた関係各位に感謝申し上げます。

本会は、会員相互の同好会活動が盛んに行われております。このことは、退職後の会員の生き甲斐に大きくかわっていると考えその設立には補助金を供与し、同好会活動を推奨しています。

私は収入〇円の農業を経営してその奥の深さと教養の必要さを実感しました。ピニルハウスの製作に、ピタゴラスの定理が必要だということを知りませんでした。

そこで、更に研究を深めるために、この道に造詣の深い山岡恒久先生（代表・久喜班）と共に「農業研究会」を立ち上げ、一四名の会員と活動しています。

最後になりましたが、これから、退職校長会の一会員として、本会の発展のため尽力して参る所存であります。

「彩の国教育の日」協賛  
**埼葛地区現職・退職校長教育推進協議会**

**一 概 要 報 告**

期 日 平成三〇年二月十七日(土)

会 場 久喜市三高サロン

参加者 現職・退職校長 一二四名  
 来賓・各市町P連会長 一三名

司 会 大塚和彦事務局員・中島剛小学校長会幹事

開会のことば 濱野紀生副会長

挨拶

○相澤勝寿会長が本協議会は「彩の国教育の日協賛」として推進してきたことの意義と教育の諸課題について述べた。

○渋谷修造埼葛小学校長会長・大西久雄埼葛中学校長会長がそれぞれ教育の現状や校長会の取り組みについて話をした。

講 話 「東部教育事務所管内の現状と課題」

清野定信東部教育事務所長が県教育行政施策や教育の諸課題について講話された。

研究発表 (別掲)

指導講評 鈴木光二県退職校長会幹事

小学校の部―子どもの様子を観察する目を養う校内授業研究会と子

どもに寄り添い、適切に対処できる教員の育成を図る特別支援教育の取り組みは教師力・管理職の資質の向上に繋がる実践である。

中学校の部―①松伏中の取り組み

―松伏授業プランはどの教科、どの単元で実施すると有効かという視点で更に研究を深めてほしい実践である。②松伏二中の取り組み

―発問を四つの視点で進める工夫と担任以外の教員がローテーションで行う道徳の授業実践は、教員の授業改善に繋がっている。

退職校長会の部―木のぬくもりのある環境での教育は情緒面、安全面等子ども、保護者にとつてのメリットは大きい。多くの子ども達との交流も図れている。幼保の連携、幼保小中高の交流など、これからの教育を考える上で学ぶ点が多い。

来賓挨拶

古谷松雄杉戸町長・相澤勝寿埼玉県退職校長会副会長・伊藤美由紀杉戸町教育委員会教育長・瀬田康晴杉戸町PTA連合会会長より温かい御祝辞をいただいた。

閉会のことば

和泉昌雄小学校長会副会長

二 研 究 発 表

変化の激しい時代を生きる  
 人間性豊かな管理職人材の育成  
 ～同僚性から学ぶ  
 経営参画意識の醸成～

杉戸・泉小学校 校長 吉野 知美

本校は、小規模校のため、県費教職員一四名は、四二歳の新任教頭をはじめ、若い職員集団である。そこで、すべての教職員を将来の管理職人材ととらえ、校内研修をベースに人材育成に取り組んでいる。

新学習指導要領の改訂、主に主体的・対話的で深い学びによる授業改善は、第四次産業革命、AIの進出など社会が大きく変化していることがその背景にある。学校生活の中心は授業であり、今、その質の管理が重要である。

そこで、昨年度から「一人一人の学びを保障する授業改善」互いに聴き合い、支え合い、学び合う教室を通して、という学校研修課題に取り組んでいる。同僚性を発揮し、校内授業研究会を充実させ、研究協議では、児童の固有名詞を出しながら、どこで学びが起きたか、停滞したか、どこで学びが深まったか、教師のつなぐ言葉等との関連をもとに協議する。そのため、四五分間の授業中、あらかじめ定めた位置にて張り付き、メモをしつつ、子どもたちの対話やつながり、エピソードを記録し、学びを見とるトレーニングに専念している。また、特別支援学級の授業も全員で参観し、特別支援コーディネーターという専門職からユニバーサルデザインを学び、通常学級の授業に活かしている。

このようにして子どもの学びを見とる力を育成するだけでなく、広い視野を持ち、地域とつながることを大切にされた学校地域連絡協議会に全職員が参加し、コミュニケーション力や調整力の育成にも取り組んでいる。

以上のように、子どもを見とる力を育て、授業を見とる力を育てていくことが、管理職として職員を見とる地域を見とる力となつていくものと考えている。主体的に学ぶのは子どもたちである。だからこそ、子どもの学びという視点に切り替え、教師の子どもを学ぶを見とる力をつけることが、主体的・対話的で深い学びの実現の力ギであると考え取り組んでいるところである。



松伏町立中学校の  
学力の向上と道徳教育

松伏中学校 渡邊 康弘

松伏第二中学校 長井 勝利

松伏町教育委員会委嘱を受けて本年度、松伏第二中が「道徳教育」、来年度、松伏中が「学力向上」の研究発表を行うので、両校の取り組みを発表しました。

・松伏中の学力向上の取り組み

地域、家庭、生徒の実態を明らかにしました。学力が他地域に比べてやや低いのが、本校のよさは朝食をしっかりと食べ、時間を守り、楽しく登校する生徒です。生徒の「よさ」を伸ばしながら、小中一貫した指導と学校独自の取り組みで少しずつ結果が見えてきました。

授業の土台となる規律と授業スタイルを小中五校で共有し松伏スタイルとして確立しました。また、学校としてスコラ手帳の活用、少人数指導、放課後の補習、基礎学力テスト、地域の人材を活用して読み聞かせボランティア、塾講師の活用、町費学習支援員による家庭学習ノート点検を行っています。

・松伏第二中の道徳教育の取り組み  
「考え議論する道徳の時間の創造」を重点に、道徳の教科化に向けて準備を進めてきました。授業実践の工夫では、生徒の思考が活

発になる発問について、場面や人物を問うものから、資料や価値を問うものまで、どのようにしたらよいか研究を重ねました。また、道徳の授業の持ち方について、担任だけでなく教職員全員がローテーションを組んで行い、管理職も授業を行います。

道徳の評価については、生徒の成長を見守り、努力を認め、励まし、生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指します。また、一単位時間だけではなく、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中での評価をおこなうようにします。

道徳の評価については、生徒の成長を見守り、努力を認め、励まし、生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指します。また、一単位時間だけではなく、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中での評価をおこなうようにします。

複合施設「杉戸町立すぎと幼稚園  
・すぎと保育園」の現状と今後の  
見通し

すぎと幼稚園・杉戸保育園  
統括管理者 河野 秀巳

はじめに

日本の社会問題でもある「少子化」子育て  
・子育て  
家庭の孤立化・待機児童」などに対応するため、子ども・子育て支援新制度が、平成二十七年四月から施行された。杉戸町でも公立幼稚園への老朽化対応、待機児童の解消を目指し、複合施設「すぎと幼稚園・すぎと保育園」を平成二十八年四月に開園した。

以下、複合施設の現状と今後の見通しについて報告する。

○工事概要  
構造：木造平屋建て（在来工法）  
敷地面積：九、六八六㎡  
延床面積：二、一八九㎡  
駐車場：七六台完備（含バス三台）  
総工費：約一〇億円  
○杉戸町子ども・子育て支援事業（基本理念）  
「笑顔が輝き しあわせ実感 みんなで子育て すぎと」  
○統括管理者の職務と施設の規模

幼稚園・保育園との連絡調整  
環境衛生・環境美化・視察対応

幼稚園：園児一六七名職員二四名  
保育園：園児 九七名職員三二名  
合計：園児二六四名職員五六名

○幼稚園と保育園の相違点  
（管轄・保育時間・免許・根拠法等）

○杉戸町の人口と園児数の増減（保育園の需要増加傾向）  
《複合施設としての特色ある取組》  
I 両園の教職員同士のコミュニケーションづくり  
（行政・施設・担当の連絡調整会議）  
II 複合施設を生かした保幼との合同交流行事  
（避難訓練・七夕・防犯教室・観劇会・餅つき・節分・ひな祭り会 等）  
※交流を通してのメリット  
III 木育教育の実施  
（指導者を招聘して親子で活動）  
IV 保幼小中高との連携や交流活動（英語・運動会・保育・職業体験等）  
おわりに  
日々思うこと：P-I-D-C-A  
○複合施設の円滑な運営へのコーディネート  
○チーム複合施設としてのパワーアップの推進  
○「グローバル」：世界規模で考え  
地方で行動↓複合施設が外部への発信基地を目指す！



## 部 会 報 告

福利厚生部

部長 萩原 征而

一〇月二六日(金) 絶好の行楽日和の中、埼玉葛研修会が実施されました。

当日、急な参加要請を快諾いただいた一名を含め、総勢三〇名で出発いたしました。

『歴史を語る「小田原城・一夜城址」と生命の星「地球博物館」を訪ねて』を研修テーマに、会長副会長の挨拶の後、第一研修地の「小田原城」へとバスを走らせ、ほぼ予定時刻通り到着しました。

小田原城では、地元ボランティアガイドにより、ポイント良く案内いただきました。北条小田原城の障子堀が遺跡調査で見えられたこと等々、その説明は単なる見学では見過ごす観点ばかりでした。

次いで第二研修地一夜城址公園に向かいました。車中で豊臣秀吉による石垣山一夜城の築城までの経緯を確認した後、東登り口より急な階段を上がると、石垣づくり集団「穴太衆」が作った、野面積みの石垣が表われてきました。本丸物見台からは「相模湾・小田原城・小田原城下」が広がり、しばし広大な風景に心奪われました。

最後に地球博物館です。体長わずか数ミリメートルの昆虫から巨大な恐竜まで、一万点にのぼる実物標本は、圧巻そのものでした。

それぞれの研修を終えて一路帰着へのバスの中、程良い疲れと共に研修の充実と満足で、参加された皆様の顔に微笑みが表われていたのが印象的でした。

次回の研修会により多くの方々の御参加を願ひ、実施報告とさせていただきます。

(文責 山下 浩)



## 研究調査部

部長 岡島 正男

埼玉県退職校長会では、平成三〇年度も「再就職・待遇に関する実態調査」を実施します。調査の目的として年金法の改正に伴い、年金の満額支給が六五歳に繰り上げられる等の現状に対応し、校長退職後の再就職・待遇の実態を把握し会員福祉の増進に資するとしています。

調査対象は三〇年度県の新会員二十名に対して九月に調査用紙配布して調査のまとめます。

埼玉葛研調査部会でも、県の調査にあわせて、「社会貢献活動実態調査」を平成二〇年から実施しています。

調査の目的として会員各自の社会貢献活動や趣味や特技を生かした個人的な活動を集約し今後の活動に役立てて欲しいという願いからです。調査対象は埼玉葛の新会員二〇名です。

九月第一回部会を開き調査内容を検討し調査用紙を郵送します。

一〇月第二部会調査用紙を回収し、部員で考察します。

一二月第三部会調査結果を協力して下さったみなさんへ配布します。結果は次回で。

(文責 小澤 勇)